

### Ⅲ. 北関東の経済動向

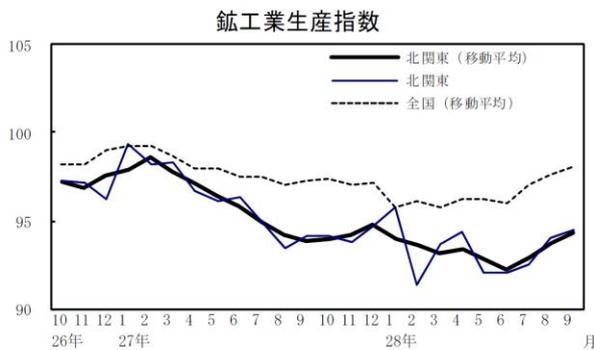
▶ 2016年11月の北関東地域における景況判断は、「景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている」である。（内閣府 地域経済動向）

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

#### ○北関東における景況判断の推移

27年8月	27年11月	28年2月	28年5月	28年8月
緩やかな回復基調が続いているが、一部に弱さがみられる	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている (↓)	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている (↑)	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている

#### ○鉱工業生産指数の推移



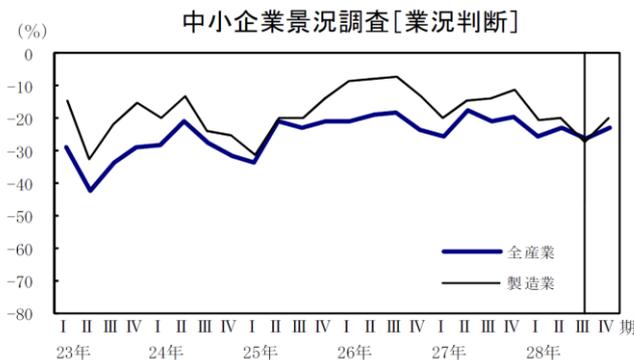
- (備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。  
 2. 全国及び北関東の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。  
 3. 北関東は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

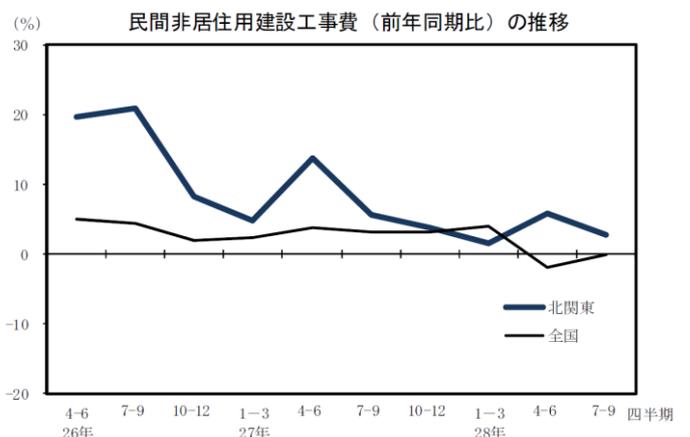
	付加価値 ウェイト	生産				
		4~6 月期	7~9 月期	7月	8月	9月
石油・石炭、化学、プラ製品	19.7	▲1.2	0.6	1.4	1.3	▲3.0
電子デバイス、電気・情報通信	19.5	▲1.5	2.7	▲0.1	6.7	▲3.8
輸送機械	18.4	1.4	0.1	▲0.7	0.2	4.9
汎・生産・業務用機械	16.0	▲2.3	0.9	1.0	1.7	3.8
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	12.9	▲0.3	0.4	0.1	0.8	▲1.8
鉱工業	100.0	▲0.9	0.9	0.4	1.6	0.5

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
 2. 7~9月期、9月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの。

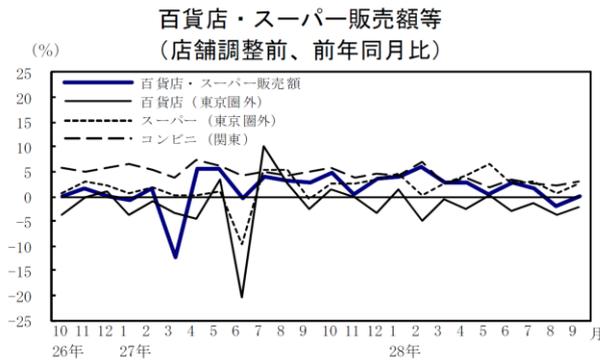
#### ○業況判断、設備投資（民間非住居用建設工事）の推移



(備考) 「女神云」 - 「悪化」回答者数構成比。28年IVは見通し。

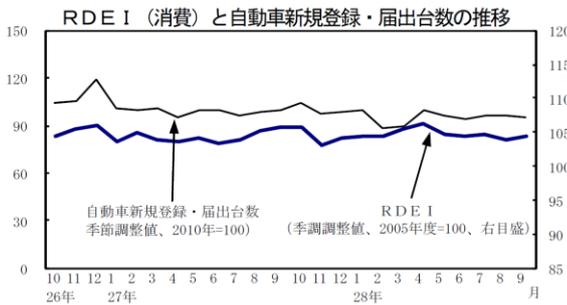


○個人消費の動向

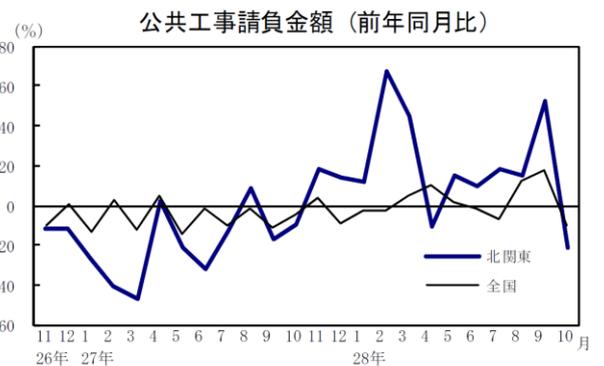
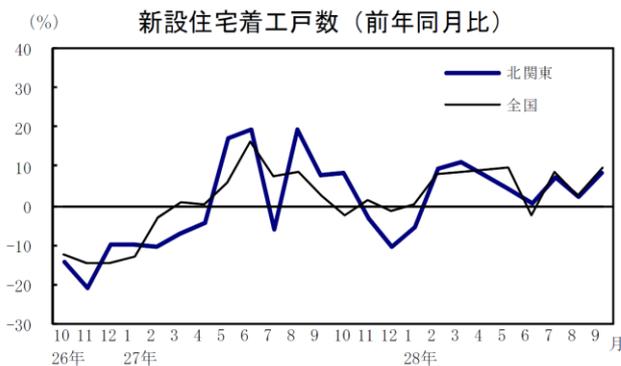


	28年7-9月	28年7月	8月	9月
RDE I (消費*1)	▲0.8	0.1	▲0.6	0.5
百貨店・スーパー(*2)	▲0.0	1.7	▲1.9	0.1
百貨店(*3)	▲3.3	▲0.1	▲7.1	▲3.5
スーパー(*3)	0.0	1.7	▲0.8	▲0.8
コンビニ(*3)	2.4	2.5	2.0	2.8
乗用車(*4)	▲2.5	▲3.5	1.0	▲3.9
(季節調整値) (*4)	▲0.6	2.7	0.4	▲1.7

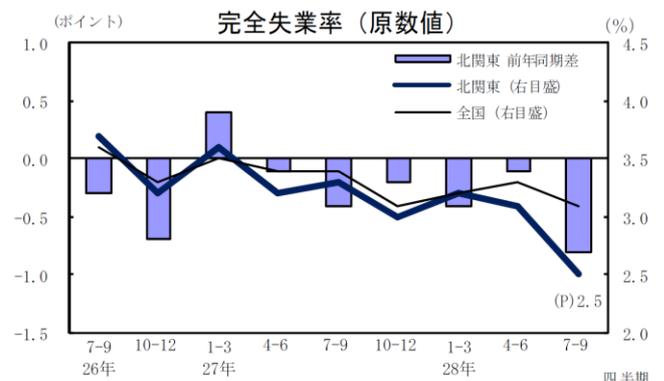
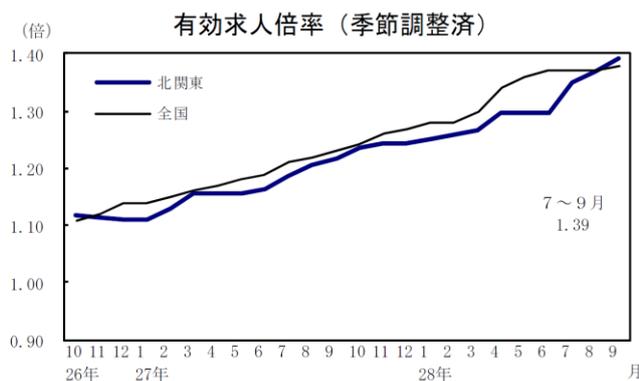
- (備考) 1. 季節調整前(月)比 (%)  
 2. 店舗調整前、前年同(月)期比  
 百貨店・スーパーは内閣府にて算出。  
 3. 店舗調整前、前年同(月)期比  
 ・百貨店、スーパーは、関東経済産業局の東京圏外(茨城、栃木、群馬、新潟、山梨、長野、静岡)の値。  
 ・コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。  
 4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



○新設住宅着工戸数、公共工事請負金額の推移



○雇用情勢 (有効求人倍率、完全失業率の推移)

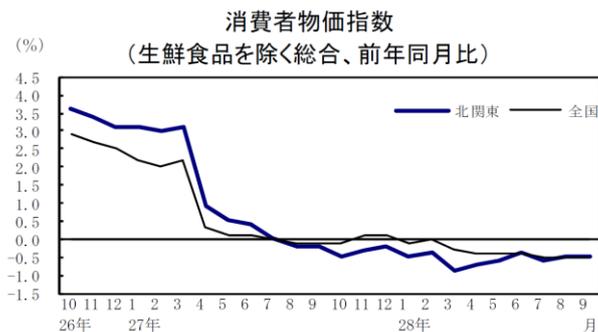


- (備考) 1. 北関東は内閣府にて算出。  
 2. 7-9月期の値は暫定値。

○企業倒産（件数、負債総額）、消費者物価指数の推移

企業倒産

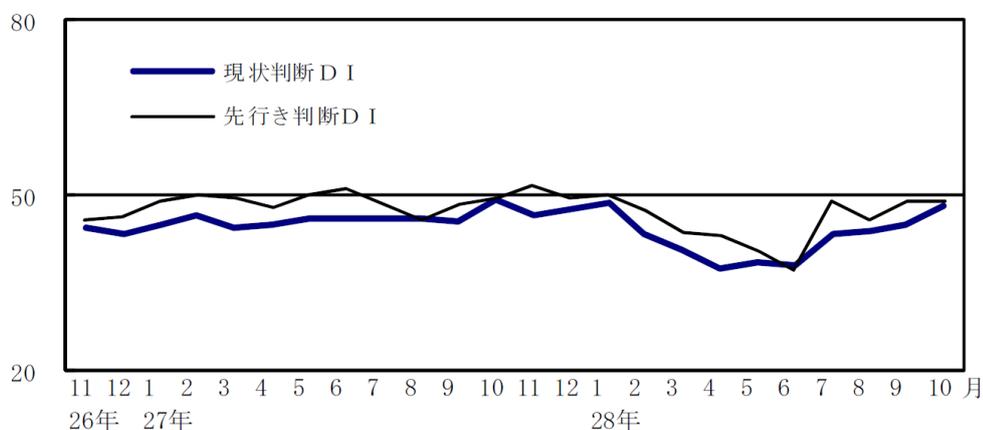
	(件、億円、%)				
	27年10-12月	28年1-3月	4-6月	7-9月	28年10月
倒産件数 (前年比)	84 ▲20.8	98 ▲13.3	93 14.8	77 ▲22.2	31 3.3
負債総額 (前年比)	95 ▲43.2	224 ▲45.6	205 65.9	121 ▲38.1	54 115.9



(備考) 北関東は内閣府にて算出。

○景気ウォッチャー調査による景況判断の推移

景気ウォッチャー調査（季節調整値）



注) 景気ウォッチャー調査：家計動向、企業動向、雇用等、代表的な経済活動項目の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種の適当な職種の中から選定した 2,050 人を調査客体とし、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的としている。

出典：内閣府 月例経済報告関係資料 地域経済 地域経済動向（平成 28 年 11 月）抜粋

## まとめ

- 2015年時点での高根沢町住民の平均年齢は、栃木県全体と比較して2.4歳若い。
- 今後2040年の高齢人口は35.3%に達すると見られ、3人に1人が高齢者となるとみられる。
- 地域内レジャー施設利用者は隣接する宇都宮市からが多い。
- 事業所としては生活関連サービス・娯楽業が栃木県全体より2.0%充実している一方、宿泊業・飲食サービス業が少ない。
- 2010年10月にキリンビール栃木工場が閉鎖されて以降の製造業出荷額は大幅に落ち込みを見せ、ここ数年は労働生産性も減少の一途を辿っている。
- 商業においては、卸売業・小売業の年間商品販売額がピークの2004年以降大幅な落ち込みを見せているが、従業者一人当たりの年間商品販売額は2014年に大きく増加している。
- 地域経済循環率は62.8%と低く、地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値額が順当に雇用者所得・その他所得へ分配されていないことが窺える。
- 地域住民の消費等の地域外への流出を抑えることが地域経済自立のカギと言える。
- 当商工会としては、各事業所に対し積極的な販路拡大の計画を策定することが急務といえる。今後、地域の小規模事業者に対し、経営計画を策定しバックアップを図ることで業績向上と地区の活性化を図っていく。

【作成・監修】

〒329-2711

栃木県那須塩原市石林317-9

株式会社UI志援コンサルティング